

2024年度

入学試験問題
(A日程)

国語

注意

- 1 「開始」の合図があるまで開いてはいけません。
- 2 「開始」の合図で、1/6から6/6まで問題が印刷されていることを確かめなさい。
- 3 解答用紙に受験番号を書きなさい。名前を書いてはいけません。
- 4 答えはすべて解答用紙の指定された解答欄に書きなさい。問題用紙に書いても得点になりません。
- 5 解答用紙はこの表紙の裏にあります。
- 6 「終了」の合図で、すぐに筆記用具を置きなさい。
- 7 問題および解答用紙は机の上に置き、持ち帰ってはいけません。

「次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。」

高校生の美緒は、自分の思ったことをなかなか口にすることができない性格で、両親に対して学校に行かない理由を言うことができなかった。理由がわからない両親にきつくあたられた美緒は、祖父の元へと家出する。

祖父が発送する荷物は大量のスプーンだった。長年、日本と世界のさまざまな土地に行くたびにこつこつ集めてきたもので、木材や金属などでつくられたものが一本ずつ仕切られたケースに整然と納まっていた。

「いつかこのコレクションを持って旅に出ようと思っていた」

銀色のスプーンをクロスで磨きながら、祖父が笑った。

「路上に絨毯を敷いて、さじをずらりと並べて買ってもらうおうかと。興味を持った人には来歴を披露する。どこの産か、どうやって手に入れたか、どこが魅力か。のんびり客と話をしながら、さじの行商をするんだ」

「荷物運びとかいららない？ そしたら、私もすみっこにいる」

「体力的にも無理だな。一度ぐらいやってみてもよかった」

祖父が今度は木製のスプーンを布で拭いた。素朴な木目をいかしたスプーンで、コーンスープやシチューをすくって食べたらいしそうだ。

「でも、良い落ち着き先が見つかったんだ。若い友人が料理屋を開くので、彼女に譲る。好きなさじを客が選んで食事をする仕組みにすると言っていた」

鉢物に本、絨毯や織物。他にも祖父が集めているものはたくさんある。染め場の奥にはエアコンで常に温度と湿度の管理をしているコレクション用の部屋があるほどだ。

「どうしてスプーンを集めたの？」

「口当たりの良さをツイキユウしたかったのと、あとはバランスだな。良い職人が創ったさじは軽くて美しい。手に持ったときのバランスが気持ちいいんだ。そのさじで食事をするのが軽やかでな。天上の食べものを口にしていく気分になる。同じことは私たちの仕事にも言える」

「スプーンと布って、全然別物っぽく思えるけど……」

祖父が手を止めると、奥の部屋に歩いていった。すぐに戻ってくると、手には紺色のジャケットを抱えていた。生地はホームズパンだ。

「おじいちゃんジャケット？」

「そうだ。お祖母ちゃんが織ったものだ。持ってごらん」

渡されたジャケットは、見た目よりうんと軽く感じた。

「あれ？ 軽いね」

「それでもダウンジャケットにくらべると若干重いかな」

ジャケットを羽織ってみるようにと祖父がすすめた。

袖に腕を通したとたん、「あれ？」と再び声が出た。手で感じた重量が身体に伝わってこない。肩にも背中にも重みがかからず、着心地がたいそう軽やかだ。それなのに服に守られている安心感がある。

「手で持ったときより、うんと軽い」

「手紡ぎ手織りの糸は空気をたくさんはらむから軽くて温かい。身体に触れる布の感触が柔らかいから、着心地が軽快になる。さじにかぎらず、良い職人の仕事は調和と均衡が取れていて心地よいんだ。音楽で言えば」

「ハーモニー？ もしかして」

「そうだ、よくわかったな」

「私、中学からずっと合唱部に入ってたの」

祖父にジャケットを返すと、慈しむようにして大きな手が生地を撫でた。

「美緒は音楽が好きなんだな」

あらためて考えると、合唱はそれほど好きでもなかった。

熱心に部にカンユウされたことが嬉しかった。合唱部はみんな仲が良さそうに見えたから、その輪に入っていると安心できただけだ。「部活、そんなに好きじゃなかったかも。なんか……私って本当に駄目だな」

ジャケットを傍らに置くと、祖父がスプーンの梱包作業に戻った。

「この間、汚毛を洗っただろう？ どうだった？ ずいぶんフンをいやがっていたが」

「臭いと思ったけど、洗い上がりを見たら気分が上がった。真っ白でフカフカしてて。いいかも、って思った。汚毛、好きかも」

「そうだろう、と祖父が面白そうに言った。」

「美緒も似たようなものだ。自分の性分について考えるのは良いことだが、悪いところばかりを見るのは、汚毛のフンばかり見ると同じことだ」

祖父が何を言い出したのかわからず、美緒は作業の手を止める。赤い漆塗りのスプーンを取り、祖父が軽く振る。

「学校に行こうとすると腹を壊す。それほど繊細さがある。良いも悪いもない。駄目でもない。そういう性分が自分のなかにある。ただ、それだけだ。それが許せないと責めるより、一度丁寧に自分の全体を洗ってみて、その性分を活かす方向を考えたらどうだ？」

「活かすって？ どういうこと？ そんなのできるわけないよ」

「そうだろうか？ 繊細な性分は、人の気持のあやをすくいとれる。ものごとを注意深く見られるし、集中すれば思わぬ力を発揮することもある。へこみとは、逆から見れば突出した場所だ。悪い所ばかり見ていないで、自分の良い点も探してみたらどうだ？」

「ない。そんなの」

「ソクトウだな」

祖父がスプーンに目を落とした。

「だって、ないから。自分のことだから、よくわかってる」

それは本当か、と祖父が声を強めた。

「本当に自分のことを知っているか？ 何が好きだ？ どんな色、どんな感触、どんな味や音、香りが好きだ。何をするとお前の心は喜ぶ？ 心の底からわくわくするのは何だ」

「待って。そんなの急にいったい聞かれても」

「ほら、何も知らない。いやなところなら、いくらでもあげられるのに」

「そんなしなめ面をしないで、自分はどんな『好き』でできているのか探して、身体の中も外もそれで満たしてみる」

「好きなことばかりしてたら駄目にならない？ 苦手なことは鍛えて克服しないと……」

「なら聞くが。責めてばかりで向上したのか？ 鍛えたつもりが壊れてしまった。それがお前の腹じゃないのか。大事なもののための我慢は自分を磨く。ただ、つらいだけの我慢は命が削られていくだけだ」

祖父がテーブルに並べたスプーンを指差した。

「手始めに、気に入ったさじがあったら、それで食事をしてみる。良いさじで食物を口に運ぶ感触をとことん味わってごらん」

戸惑いながらも梱包していないスプーンと、コレクションが納まった箱を美緒は一つずつ見る。祖父が集めたものは、どれも色や形が美しい。そしておそろく外見のほかに祖父の心をとらえた何かがある——。しだいに興味がわいてきて、次々とスプーンが入った箱を開けて見る。

木材、金属、動物の角。さまざまな材質のスプーンを持ったあと、最後に残った箱を開けた。

赤や黒、赤紫色に塗られた木製のスプーンが出てきた。

無地もあるが、金箔などで模様を描かれたものや、虹色に輝く装飾が施されているものもある。

一本、一本見ていくなかで、シンプルな黒塗りのスプーンに心惹かれた。手にすると、スプーンの先から柄に向かって、真珠色の光が走った。

「おじいちゃん、これはうるし？」

祖父はうなずいた。

「これがいい、これが好き。おじいちゃん、このスプーンをください」

「美緒はこれが好きか。どうしてこれを選んだ？」

「直感？ 何かいい感じ」

祖父の目がやさしげにゆるんだ。目を細めるとやさしく見えるところは、太一（美緒の親戚）と似ている。

ほめられているような眼差しに心が弾み、黒いスプーンを見る。

幼い頃、壁にかかった視力検査表で視力を調べられたことがある。

黒いスプーンを右目に当て、おどけてみた。

「視力検査……」

一瞬、不審そうな顔をしたが、祖父はすぐに横を向いた。口もとに軽くこぶしを当てて、笑っている。

おどけた自分が猛烈に恥ずかしくなり、美緒はスプーンを握った手を膝に置く。

たいして面白くもないだろうに、祖父は目を細めてまだ笑っていた。

（伊吹有喜『雲を紡ぐ』）

*汚毛……羊から刈り取ったままの毛。ゴミや草、糞が付いていることが多い。

問一 —— 線部1と3と同じ漢字が使われているものをそれぞれの語群ア～オから一つずつ選び、記号で答えなさい。

1 ツイキュウ

ア 新製品のフキユウが進む。
イ 音についてケンキュウする。
ウ 情報開示をセイキュウする。
エ 会議がフンキュウした。
オ キュウチに追い込まれる。

2 カンユウ

ア 撤退をカンコクする。
イ 心からカンゲイします。
ウ 各地をカンコウする。
エ 注意をカンキする。
オ 規制がカンワされる。

3 ソクトウ

ア 町の変わったキノクに疑問を持つ。
イ 運動は血行ソクシンの方法である。
ウ 高性能リーダーで対象をホソクする。
エ 国王にソクイして十年が経つ。
オ こうなることをヨソクして行動する。

問二 —— 線部A「洗ってみて」、B「気持ちのあや」、C「顔をしかめる」の本文中の意味として適当なものをそれぞれの語群ア～オから一つずつ選び、記号で答えなさい。

A 洗ってみて

ア 鍛えてみて
イ 見直してみ
ウ 元気にしてみ
エ 受け入れてみて
オ きれいにしてみて

B 気持ちのあや

ア 言外に込めた心情
イ 隠しておきたい心情
ウ 表情から読める心情
エ 複雑に入り組んだ心情
オ 誰も理解できない心情

C 顔をしかめる

ア 不思議な表情をする
イ 不気味な表情をする
ウ 不可解な表情をする
エ 不自然な表情をする
オ 不愉快な表情をする

問三 — 線部①「祖父が笑った」とありますが、このときの笑いはどのような笑いだと考えられますか。最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 手間をかけて準備した夢が実現できなかったことへの苦笑い。
- イ 美緒にスプーンに対して興味を持ってもらうための作り笑い。
- ウ 好きなものについて話しているうちにこぼれた含み笑い。
- エ 美緒に昔の夢を聞かれたことが恥ずかしくてこぼれた照れ笑い。
- オ あまりにも無謀な夢を抱いていた昔の自分に対する高笑い。

問四 — 線部②「天上の食べものを口にして気分になる」について、次のようにまとめました。() () にあてはまることばを本文から十五字で探し、書き抜きなさい。(句読点、記号は字数に数えます。)

良い職人のさじは、() () ため、そのさじで食事をする、この上なく特別な気持ちになるといふこと。

問五 — 線部③「私って本当に駄目だな」とありますが、このときの美緒の心情として最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 長い間合唱部を続けていたというのに、音楽を好きになるところか合唱部自体があまり好きではなかったことに気づき、心が痛んでいる。
- イ 合唱部の部員に期待されて入部したはずだったが、技術面でも精神面でも合唱部員の足を引っ張っていたことに気づき、落ち込んでいる。
- ウ 合唱部で楽しそうに歌う部員たちに憧れて入ったものの、結局最後まで部活を好きになれなかったことに気づき、申し訳なく思っている。
- エ 合唱も部活も好きで続けていたわけではないのに、祖父に対して合唱部だったことを自慢げに語っていることに気づき、腹を立てている。
- オ 部活を続けていたのは合唱への思い入れからではなく、そこが気の休まる居場所だったからだという事に気づき、情けなく思っている。

問六 — 線部④「汚毛のフンばかり見ると同じことだ」とありますが、祖父が美緒に言いたかったのはどういふことだと考えられますか。解答欄に続くように、本文の言葉を使って三十五字以内で説明しなさい。(句読点、記号は字数に数えます。)

問七 — 線部⑤「祖父がスプーンに目を落とした」、線部⑥「祖父がテーブルに並べたスプーンを指差した」、線部⑦「祖父の目がやさしげにゆるんだ」とありますが、それぞれの場面における祖父と美緒について次の表のようにまとめました。後の問い(1)～(4)に答えなさい。

	場面		祖父	美緒
⑤	祖父がスプーンに目を落とした	(1)		スプーンとコレクションが納まった箱を一つずつ見る — (a)
⑥	祖父がテーブルに並べたスプーンを指差した	(2)		次々とスプーンが入った箱を開けて見る — (b)
⑦	祖父の目がやさしげにゆるんだ	(3)		「これがいい、これが好き」と言う — (c)

(1) (1)には、このときの祖父の様子が入ります。最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア どうしてこんなにも我慢のできない子になってしまったのかと、失望している。
- イ どうしてこんなにも聞き分けのない子になってしまったのかと、無然もだとしている。
- ウ どうしてこんなにも自信を持ってない子になってしまったのかと、落ち込んでいる。
- エ どうにかして美緒の考えを変えることができないかと、思いを巡らせている。
- オ どうにかして美緒の理想を変えることができないかと、落ち着かないでいる。

(2) (2)には、このような行動を取った祖父の意図が入ります。最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 好きなもので満たすことが悪いことではないと知ってもらい、好きなものを探し続けるきっかけにしてほしい。
- イ 頻繁に腹を壊すのは気持ちの問題であると気づいてもらい、食器を変えることで気分転換するきっかけにしてほしい。
- ウ 好きなものや気に入ったものに満たされる感覚を実感してもらい、もっと自分自身を知るきっかけにしてほしい。
- エ 自分を厳しく律することが必ずしも成長につながるわけではないと気づかせ、休むことの重要性を知ってほしい。
- オ 物事の善し悪しは見方によって変わること気づかせ、我慢には良い我慢と悪い我慢があると知ってほしい。

(3) (3)に入る、祖父の心情を四十字以内で説明しなさい。(句読点、記号は字数に数えます。)

- ア 「a 関心 b 期待 c 興奮」
- イ 「a 期待 b 興味 c 満足」
- ウ 「a 動揺 b 興奮 c 憧れ」
- エ 「a 憧れ b 期待 c 感謝」
- オ 「a 困惑 b 関心 c 高揚」

問八 本文の表現の特徴として最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 作品中に出てくる物の色や素材を丁寧に書き表すことで、美緒の感じたものが読者に伝わるように表現している。
- イ 登場人物の言葉遣いを特徴的なものにするので、それぞれの発言が誰のものか読者にわかるように表現している。
- ウ 赤や金など明るい色を繰り返して使うことで、その場面における登場人物の心情が変わっていく様子を表現している。
- エ 短いセリフの間を置かず繰り返されることで、美緒と祖父の間の緊張が少しずつ増していく様子を表現している。
- オ 美緒と祖父の両方の視点から物語を描くことで、二人の心情が躍動感を持って変化していく様子を表現している。

紙か電子かという問題もあるが、ツイッターの登場で「大量発話時代」が幕を開け、情報の流れに新たな変化が起きた。電子ブックにしても著者から版元、メディアを通して読者へという情報の流れは変わらないが、大量に発話され大河のような流れをなす夥しい言葉の断片を情報の「資源」ととらえるなら、これは従来の流れに逆行する新たな情報源の誕生を意味する。

一例として典型的な旅行ガイドブックを想像してほしい。編集側が入手した情報のみならず、旅行者の投稿を活用するこの種の旅行ガイドは、体験に根ざした情報だけにリアリティがあつて、自主的に動いていく旅行には欠かせないものであつた。分厚い書籍はかさばるので、旅のエリアに依りて本を分割して、必要などころだけ持つていくようなことがよく行われてきた。PCなどのタッチパネルデバイスの登場は、この分厚い本を持ち歩くことから旅行者を解放してくれることだろう。これはこれで便利である。しかし、電子ブックはそこで終わらない。旅の情報を実際に旅をしてきた人たちの体験に近づくほどリアリティを持つなら、情報ソースは、過去に旅をした人から寄せられるデータよりも、むしろ「今、旅をしていく人たち」からもたらされるものの方が信憑性が高い。だから電子ブックは、「今」を取り込もうとするだろう。(ア)

たとえば、陸路でインドに入ろうとしている旅人に、インドとパキスタンの国境の町に今いる人のつぶやきは限りなく貴重である。治安状況は刻々と変化しているからである。あるホテルに六カ月前に宿泊した経験を待つ読者の投稿はそのホテルを評価する上で貴重な情報源だったが、そこに「今、泊まっている」人のつぶやきのリアリティには及ばない。(イ)

ツイッターのような③でも、それをつまみ出して整理するしたたかな編集感覚を働かせるなら、そこにユニークな旅行ガイドが生まれる可能性がある。「旅行ガイド」はあらゆる書籍の比喩である。新たな情報の源泉や流れを把握した編集は、ユーザーの能動性と連携し、読者からさらに新たな情報資源が生み出されていく。この関係には今後も注目が必要だ。(ウ)

都市もこれからますます「読み物」になつていくだろう。目指した映画館やショップにたどり着くだけでなく、都市という未知なる出来事の塊の中から自分にとって好ましい情報をタイムリーに読み出してアクセスできるなら、都市はその深奥まで利用可能になる。(エ)

地図や買い物ガイドのような、あらかじめ編集された情報ではなく、情報端末から都市が読み出せるようになったらどうだろう。たとえば、おなががすいているときに、「三人」「カジュアル」「十九時」「イタリアン」などと、項目を選択するだけで、今いる都市エリアから、該当するレストランを精密に読み出すことができれば便利である。あるいは、花を買おうと思いついたときに、「野草」「切り花」「茶事」などと、希望条件を選択するだけで、歩いていける距離にある花屋が複数紹介されるような仕組みができてくると、都市の使い勝手はさらによくなる。映画にしても、セールの情報にしてもマッサージにしても同じことだ。(オ)

都市は膨大な情報で出来ている生命体のようなものだ。それを読み出す「編集」の創造性が増す、すなわち血流が加速するならば、都市はいつも細やかに成長していくだろう。表通りに面した一等地にのみ客が集まるのではなく、裏通りの小さな店の存在や魅力を読み出すことができれば、街はさらに奥深く分岐していく可能性を持つだろうから。

また、都市を今、歩いている人たちの多くは情報の発信者でもある。大量に発話された情報を目的に合わせてエツランすることもできる。メディアの充実と、タッチパネルデバイスの充実、書籍の可能性のみならず、情報の流れや編集の可能性を確実に変えていくものであり、これによって個人が手にする情報の量や行動の可能性を飛躍的に拡大させていく。

しかしながら、人間の幸福が、メディアの進展に伴って飛躍するかどうかはわからない。情報や選択肢が爆発的に増えたからといって、それだけよりよい人生が送れるという保証はない。卵を五十万個差し上げますと言われても、あまりピンとこない。とても食べきれないし、そんな量を抱えること自体が落ち着かない。人が賞味できるのは常に一つの卵であつて、それを何分ポイルし、どの程度の半熟かを吟味し、どんなエッグスタンドに立て、いかなるソルトシェイカーで塩をふりかけ、どのような銀のスプーンでそれをすくって食べるかが人生なのである。そこを踏まえつつ、飛躍的に増える情報の行方を目を凝らさなくてはならない。

電子ブックの登場で、テキストの管理・保存が楽になり、それを読みたい人にスムーズに提供できるようになると、紙の本のように手間のかかる方法で存在を許されるテキストは減少するだろう。電子ブックなら限りなくローコストで流通させられるのだから、平均的なコンテンツなら紙に刷る必要はない。情報文化の周辺に発生する新たなコモンスセンスによって紙の本は減る。しかしその速度は⑥。人類が、書物のようによく出来た、そして慣れ親しんだメディアを手放すには相応の時間がかかるのだ。

一方で、「本になる」というのは②に希少価値になっていく。言葉と紙の書物にとってこの傾向はむしろ望ましい。ここしばらくの間、作れば売れるということもあつてか、本にならなくてもいいような雑駁なテキストが、深く顧みられることもなく次々と紙に刷られてしまった。だから本の尊厳が下落して、そのほとんどは電子ブックに置き換えられようと錯覚されるほどの存在に成り果てていた。

おそらく出版社の数は減り、書店の数も減るだろう。しかし生き残った出版社は安易に本を制作することを慎むようになり、出版への覚悟と意志を明快に書籍に表現するようになるはずだ。書物として所有したいと意欲されるような魅力に満ちたテキスト。希少な業績であると誰もが認める内容。さらには、吟味されたタイポグラフィや装丁が醸し出す物体としての風格や尊厳。そういったものが、紙の書籍に再び求められるようになるだろう。だから「紙の本」は祝福された情報のかたちとして、新たな重みをカクトクするはずである。著者も自著が電子ブックにとどまらず「紙の本」へと出世することを密かに期待するようになる。

書店も、ただ漫然と売れ筋から本を並べるような書店はネットストアに取って代わられるが、一方では個性的な品揃えや、創意に満ちた並べ方を工夫する「知のセレクトショップ」のような書店が注目されるはずだ。これからの店は、小さくても主張に理があれば必ず見つけ出され、それを求める顧客と結びついていくのである。

逆にこんなことがおこるかもしれない。個人個人の手元に安価に電子データが入手できるようになるなら、その持ち主の好みに添って本が書籍化されていく。自分だけの『カラマゾフの兄弟』、私家版『陰翳礼讃』、ギフト用の『1Q84』、我が家オリジナル『広辞苑』など、少々値は張るが、版型や紙質、装丁などが比較的自由にカスタマイズができるようになる。

人々は今後ますます、多くのデータを抱えて暮らすようになる。写真、ブログ、メール、ツイッター……。加えて今後は電子データの小説、専

門書、詩集……データではなく本として持ちたいという欲求は決して小さくない。それらを書籍として物質化できるサービスがあるなら、それを実行に移す人たちが必ず現れてくる。

モニターの上に表示される像は、はかなく頼りない。自分で撮った旅の写真を写真集として手にすることができたらどんなに充足感があるか。丁寧に作られた俳句を句集として親しい友人に手渡すことができたらどんなに感動的だろう。デザイナーたちは、その一つ一つに時間をかけてデザインすることはできないかもしれないが、装丁やレイアウトのアルゴリズムなら汎用用途に提供できるだろう。

テクノロジーは電子ブックを生み出す方向にのみ働いている訳ではない。一人一人の要望に応じて、一冊ずつから本が作れるようになる状況をも生み出していく。これまでは出版社が、本作りを代行していたわけであるが、その方式が一部崩れて、まずは最も安価に流通できる電子データとして多くの人々に配信され、しかるのちに、希望する人のみが、希望するかたちの本を具体化していく。ここでは再び「本」の出来映えが問い直されることだろう。

ともあれ、テキストと書籍の関係は、程よい緊張状態を再び取り戻すはずである。奇妙なものが多数生まれることで、本当に美しいものの意味もはつきりする。だから紙の本は、数は減らしても「情報のチョウウコク」としての輝きは失わないだろう。

百年先の未来はわからないが、僕らは今、この時代にしかできない仕事をしなくてはならない。電子化の波にさらされて緊張感を増す書籍。この状況を見誤って、小さな未来を小賢しく先取りすることがないように、慎重に目をこらしつつ。

(原研哉『大量発話時代と本の幸せについて』)

*ツイッター……インターネット上に規定文字数以内で投稿ができるウェブサービス。現在は「X」という名称である。

*テキスト……本、文章、本文などのこと。特にIT分野では文字データを指す。

*コンテンツ……インターネットなどのメディアを通して伝えられる情報内容。

*コモンセンス……常識・良識。

*雑駁……雑然として統一がないこと。

*タイポグラフィ……文字や文章を読みやすく、または美しく見せるための技術。

*『カラマーゾフの兄弟』……一八八〇年に出版された、ヒョードル・ドストエフスキーの作品。

*『陰翳礼讃』……一九三九年に出版された、谷崎潤一郎の作品。

*『1Q84』……二〇〇九年に出版された、村上春樹の作品。

*カスタマイズ……使用者の必要に応じて設定を変更すること。

*アルゴリズム……特定の目的を達成、解決するために一般化された方法や手順。

問一 —— 線部1〜4のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 —— 線部①「情報の流れに新たな変化が起きた」とありますが、これはどのようなことですか。最も適当なものを次のア〜オから選び、記号で答えなさい。

ア 膨大な量の情報を「資源」ととらえ、読者が既存のメディアを必要としなくなるということ。

イ 膨大な量の情報を「資源」ととらえ、読者が情報発信者になることがありえるということ。

ウ 膨大な量の情報を「資源」ととらえ、読者が常に情報端末を持つようになったということ。

エ 膨大な量の情報を「資源」ととらえるには、読者が実際に体験しなければならぬということ。

オ 膨大な量の情報を「資源」ととらえるには、読者が電子ブックを利用しなければならないということ。

問三 —— 線部②「電子ブックはそこで終わらない」とありますが、これはどういうことですか。最も適当なものを次のア〜オから選び、記号で答えなさい。

ア これまでに体験した情報だけでなく、これから体験する情報を予測できるということ。

イ 編集者が持つ情報だけでなく、利用者が持つ情報もすでに内包しているということ。

ウ 信頼度の高い情報だけでなく、真偽の判断ができない情報も資料にするということ。

エ 多くの人が求める情報だけでなく、一部の人が求める情報を生成するということ。

オ 蓄積されている情報だけでなく、現在起きている情報を提供できるということ。

問四 本文からは次の一文がぬけています。どこに入れるのが適当ですか。最も適当な所を本文中のへ〜ア〜オから選び、記号で答えなさい。

今は雨期で、快適なはずのホテルにも雨漏りが発生しているかもしれないからである。

問五 ③に入ることをばとして最も適当なものを次のア〜オから選び、記号で答えなさい。

ア 世界の縮図 イ 失礼な発言 ウ 多数派の意見 エ 不安定な情報 オ 不都合な真実

問六 —— 線部④「都市はいっそう細やかに成長していく」とありますが、これはどのようなことですか。最も適当なものを次のア〜オから選び、記号で答えなさい。

ア 都市が情報端末によって詳しく検索され、これまで気づかなかった魅力が明らかになり、街の隅々まで活性化していくということ。

イ 都市が情報端末によって詳しく検索され、条件に合うものが複数見つかるようになり、街を歩く楽しみが増えていくということ。

ウ 都市が情報端末によって詳しく検索され、迷わず目的の場所に到着できるようになり、行動できる範囲が広がっていくということ。

エ 都市が複数の情報端末によって検索され、さらに多くの人間が編集するようになり、街の信用度が高まっていくということ。

オ 都市が複数の情報端末によって検索され、より希望に沿った情報を提供できるようになり、より一層便利になっていくということ。

問七 — 線部⑤「人間の幸福が、メディアの進展に伴って飛躍するかどうかはわからない」とありますが、その理由を次のように説明しました。

A・B にあてはまることを A は本文の言葉を使って十字以内で書き、B は十字以内で考えて書きなさい。

(句読点、記号は字数に数えます。)

人生は、卵の例が示すようにメディアの進展に伴って増えた A でその善し悪しが決まるとは限らず、むしろ B が重要であるということ。

問八 ⑥ に入ることをばとして最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 本の歴史から考えればわずかな時間である
- イ 人間が認識できる早さではないだろう
- ウ 想像しているより早くないかもしれない
- エ いつしか気にならなくなるに違いない
- オ メディアの進展のためには必要なのだ

問九 — 線部⑦「言葉と紙の書物にとってこの傾向はむしろ望ましい」とありますが、その理由として最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア もともと評価の高かったテキストが電子ブックとなることで、紙の本で販売するより多くの人に読んでもらえるようになるから。
 - イ テキストや紙の本にもともと備わっていた質や品格が再評価されることになり、それらの魅力が引き出されるようになるから。
 - ウ 紙の本になり得なかったテキストが電子ブックの登場によって作品になることができ、世の中に販売されるようになるから。
 - エ 紙の本として販売するだけで価値があると見なされるため、そこに書かれたテキストの価値も高く評価されるようになるから。
 - オ 紙の本を持つことそのものがステータスとなり、そこに書かれたテキストに関係なく紙の本を求める人が増えるようになるから。
- 問十 — 線部⑧「逆にこんなことがおこるかもしれない」とありますが、電子データがあることで、筆者がおこるかもしれないと思っていることは何ですか。その説明として最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。
- ア これまで出版社が代行していた紙の本の電子化を個人で行えるようになり、簡単に販売することができるようになるということ。
 - イ これまで出版社が代行していた紙の本の電子化を個人で行えるようになり、作家と契約を結ぶことができるようになるということ。
 - ウ これまで出版社が代行していた紙の本の作成を個人で行えるようになり、電子データの書籍化を仕事にする人が出てくるということ。
 - エ これまで出版社が代行していた紙の本の作成を個人で行えるようになり、自分の趣味に添ったものを作れるようになるということ。
 - オ これまで出版社が代行していた紙の本の作成を個人で行えるようになり、一風変わった本が数多く作り出されるようになるということ。
- 問十一 — 線部⑨「データではなく本として持ちたい」という欲求は決して小さくないのはなぜですか。本文の言葉を使って四十五字以内で説明しなさい。(句読点、記号は字数に数えます。)
- 問十二 本文の内容に合致するものとして最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。
- ア タッチパネルデバイスが登場したとはいえ、実際にその場所へ行く以上に価値のある情報が得られるわけではない。
 - イ テクノロジーの発展によって手に入る情報が大幅に増えたとはいえ、以前と比べてリアリティを持つわけではない。
 - ウ 電子ブックが活用されるようになり気軽に読書する環境が整ったからといって、本を読む人が増えるわけではない。
 - エ 電子データから作品を作る流れが一般的になる中で、著作権などの権利問題に対して注意を払わなければならない。
 - オ あらゆるものが電子化されていく中で、書籍の置かれた状況を捉え損ねることなく冷静に判断しなければならない。

問一 1

2

3

問二 A

B

C

問三

問四

問五

ア イ ウ エ オ			

問七 (1)

(2)

(3)

(4)

問八

問一 1 エツラン

2 ジョジョ

3 カクトク

4 チョウコク

問二

問三

問四

問五

問六

問七 A

問八

問九

問十

B

問十一

問十二

受験番号
得点

問一 1 2 3 問二 A B C 問三

問四 調和と均衡が取れていて心地よい 問五

美緒が自分の個性分の悪	いい所ばかりを見ず、悪い所ばかりを見てしまうのをやめさせたい(ということ)。(33字)	いい所ばかりを見ず、悪い所ばかりを見てしまうのをやめさせたい(ということ)。(33字)	いい所ばかりを見ず、悪い所ばかりを見てしまうのをやめさせたい(ということ)。(33字)	いい所ばかりを見ず、悪い所ばかりを見てしまうのをやめさせたい(ということ)。(33字)	いい所ばかりを見ず、悪い所ばかりを見てしまうのをやめさせたい(ということ)。(33字)
美緒が自分の個性分の悪	いい所ばかりを見ず、悪い所ばかりを見てしまうのをやめさせたい(ということ)。(33字)	いい所ばかりを見ず、悪い所ばかりを見てしまうのをやめさせたい(ということ)。(33字)	いい所ばかりを見ず、悪い所ばかりを見てしまうのをやめさせたい(ということ)。(33字)	いい所ばかりを見ず、悪い所ばかりを見てしまうのをやめさせたい(ということ)。(33字)	いい所ばかりを見ず、悪い所ばかりを見てしまうのをやめさせたい(ということ)。(33字)
美緒が自分の個性分の悪	いい所ばかりを見ず、悪い所ばかりを見てしまうのをやめさせたい(ということ)。(33字)	いい所ばかりを見ず、悪い所ばかりを見てしまうのをやめさせたい(ということ)。(33字)	いい所ばかりを見ず、悪い所ばかりを見てしまうのをやめさせたい(ということ)。(33字)	いい所ばかりを見ず、悪い所ばかりを見てしまうのをやめさせたい(ということ)。(33字)	いい所ばかりを見ず、悪い所ばかりを見てしまうのをやめさせたい(ということ)。(33字)
美緒が自分の個性分の悪	いい所ばかりを見ず、悪い所ばかりを見てしまうのをやめさせたい(ということ)。(33字)	いい所ばかりを見ず、悪い所ばかりを見てしまうのをやめさせたい(ということ)。(33字)	いい所ばかりを見ず、悪い所ばかりを見てしまうのをやめさせたい(ということ)。(33字)	いい所ばかりを見ず、悪い所ばかりを見てしまうのをやめさせたい(ということ)。(33字)	いい所ばかりを見ず、悪い所ばかりを見てしまうのをやめさせたい(ということ)。(33字)
美緒が自分の個性分の悪	いい所ばかりを見ず、悪い所ばかりを見てしまうのをやめさせたい(ということ)。(33字)	いい所ばかりを見ず、悪い所ばかりを見てしまうのをやめさせたい(ということ)。(33字)	いい所ばかりを見ず、悪い所ばかりを見てしまうのをやめさせたい(ということ)。(33字)	いい所ばかりを見ず、悪い所ばかりを見てしまうのをやめさせたい(ということ)。(33字)	いい所ばかりを見ず、悪い所ばかりを見てしまうのをやめさせたい(ということ)。(33字)

問六(別) 自分の性分の良い点を見ず、悪い所ばかりを見てしまうのをやめさせたい(ということ)。(33字)
 (別) 自分の性分の悪い所ばかりを見るのではなく、良い所を活かしてほしい(ということ)。(32字)

問七(1) (2) (3) (4)

美緒が自分の好みのきなス	美緒が自分の好みのきなス	美緒が自分の好みのきなス	美緒が自分の好みのきなス	美緒が自分の好みのきなス	美緒が自分の好みのきなス
美緒が自分の好みのきなス	美緒が自分の好みのきなス	美緒が自分の好みのきなス	美緒が自分の好みのきなス	美緒が自分の好みのきなス	美緒が自分の好みのきなス
美緒が自分の好みのきなス	美緒が自分の好みのきなス	美緒が自分の好みのきなス	美緒が自分の好みのきなス	美緒が自分の好みのきなス	美緒が自分の好みのきなス
美緒が自分の好みのきなス	美緒が自分の好みのきなス	美緒が自分の好みのきなス	美緒が自分の好みのきなス	美緒が自分の好みのきなス	美緒が自分の好みのきなス
美緒が自分の好みのきなス	美緒が自分の好みのきなス	美緒が自分の好みのきなス	美緒が自分の好みのきなス	美緒が自分の好みのきなス	美緒が自分の好みのきなス

基準…自分で選ぶ…②
 …はつきり言う…②
 …喜んでいいる…②

問一 1 エッラン 2 ジョジョ 3 カクトク 4 チョウコク
 閲覧 徐々 獲得 彫刻

問二 問三 問四 問五 問六

問七 A 情報や選択 肢の量 問八 問九 問十

B 情報はどう利用するか

問十一 問十二

はかなく頼りない像を	はかなく頼りない像を	はかなく頼りない像を	はかなく頼りない像を	はかなく頼りない像を	はかなく頼りない像を
はかなく頼りない像を	はかなく頼りない像を	はかなく頼りない像を	はかなく頼りない像を	はかなく頼りない像を	はかなく頼りない像を
はかなく頼りない像を	はかなく頼りない像を	はかなく頼りない像を	はかなく頼りない像を	はかなく頼りない像を	はかなく頼りない像を
はかなく頼りない像を	はかなく頼りない像を	はかなく頼りない像を	はかなく頼りない像を	はかなく頼りない像を	はかなく頼りない像を
はかなく頼りない像を	はかなく頼りない像を	はかなく頼りない像を	はかなく頼りない像を	はかなく頼りない像を	はかなく頼りない像を

基準…像(データ)を…②
 …本に(具体化)する…①
 …充足感(感動)を得られる…③

別…はかなく頼りない像を本にすることの充足感や、友人と共有することの感動を得られるから。(42字)